

# 視察研修レポート



## 議会広報特別委員会

10月20日 埼玉県小川町

10月21・22日 町村議会広報研修会(全国)

11月27日 議会広報研修会(群馬県)

### 小川町議会

## 編集技術向上のため

10月20日議会広報誌編集技術向上のための視察研修を実施しました。

小川町議会だよりの編集方針は、

一、「町民の笑顔と一生懸命な姿」をテーマに、まず手にとってもらえるために写真の表紙にした。また、2・3ページの見開きを最重要ポイントとして力を入れている。

二、住民目線でわかりやすい表現を心がける。行政用語を極力避け、分かりにく

い文言には、欄外に解説をいれる。

三、一般質問は、議員3人で2ページを基本に余白も考慮し、質問の関連写真を1枚挿入可として読みやすさに配慮している。

四、「わたしの一言」、「我が町再発見」など町民に参加してもらえるコーナーを設けている。合わせて議員が町民の中に入り取材する

「議員記者クラブ」を新設し、議会報に興味を持ってもらえる環境づくりをしている。

五、協議は全員で行い、視察や研修など良いと思われることを積極的に取り入れていく。

としていました。いかにわかりやすく、正確に、住民目線にたつて、住民に親しまれる議会だよりを目指していることを感じました。

### 全国広報

## 読みやすい議会だよりを目指して

10月21・22日の2日間東京で開催された全国町村議会広報研修会に参加しました。

1日目は、

一、「伝える広報」から「伝わる広報」へと題し、小田順子氏(広報コンサルタント、文章改善コンサルタント)。

二、「広報紙面のデザイン基礎知識」

長沢忠徳氏(武蔵野美術大学教授)。

三、「写真の見方、考え方」 神島美明氏(写真家)。

3人の講師の方の講義を受けました。

2日目は「議会広報クリニク」で、第4分科会に参加し、西村良平氏(実践女子短期大学講師)の講義を受けました。議会だよりを村民の方に手にとってもらうという観点から、表紙の写真の重要性和読みやす



い表記、タイトルの文字の大きさや文字組み、グラフの説明などの表記方法について講師の方々から、それぞれの分野で講義を受けることができました。

今後、この研修の成果を生かし、読みやすい紙面作りを目指し親しまれる議会だよりの編集に取り組んでいきます。

進んだ  
施策を

# 学んで生かすべ!!

## 県広報

### 伝わる広報を目指して

11月27日、群馬県市町村会館において議会広報研修会が行われました。

講師には、編集・出版アドバイザーの芳野政明氏を迎え、講義が行われました。午前中は、「住民に読まれ、議会の活動が伝わる広報誌づくり」について学び、午後は4町村の議会広報誌がクリニックスを受け、問題点の指摘や改善点を学びました。

「しんとうむら議会だより」もクリニックスに応募し審査を受けました。目的に沿った企画・編集になっ

ているか、読みやすさ、わかりやすさ、また、写真の撮り方や使い方など様々な角度から良い点や改善点を指摘していただき、広報委員として非常に有意義な研修となりました。

これからもより良い議会だより作りに努力していきます。



## 道州制の動向と問題点 日本の政治の行方は

『道州制の動向と問題点』について幸田雅治講師から『日本の政治の行方』については田崎史郎講師から講演を受けました。

幸田講師は、現在、神奈川県法学部教授で、内閣官房内閣参事官（道州制担当）及び全国町村議会議長会「道州制と町村議会に関する研究会」委員の経歴をもっています。

道州制は、国と地方双方の在り方を根本から見直す大改革であり、国民生活に大きな影響を及ぼすものであり、道州制の検討に当たっては、基本的なイメージ



田崎講師

を明確に示し、国民的な幅広い議論が行われることが重要であり、問題点としての4点が指摘されました。  
・都道府県制度の必要性  
・地方分権改革への影響  
・不十分で偏った議論  
・「国のかたち」への不安

また、田崎講師は、中央大学法学部卒業後、時事通信社に入社し、解説委員長などを歴任して平成22年定年に伴い、各テレビ局などの政治担当解説員として活躍されております。

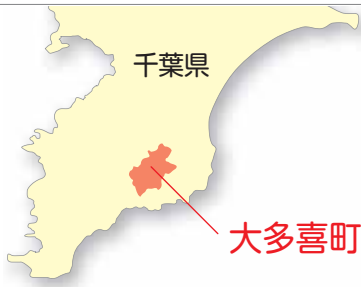
「なぜに日本の政治はダメなのか。」「不祥事が起きても得する政治家と損する政治家」「政治の裏表」及び「日本の政治の行方」等、地方ではわからない政治の世界の内容であり、新たな知識を得ることができました。

10月29日 全議員

## 群馬県町村議員研修会



幸田講師



# 基地対策・幹線道路 特別委員会

**11月12日** 国道465線 297号線バイパス  
(千葉県大多喜町)

## 主幹線道路の整備

本研修は、幹線道路ということで千葉県の道路事情の研修でした。

国道465号線は、外房

の主要都市である茂原市を起点にいすみ市を経て大多喜町、君津市を通って富津市に至る路線で、東京湾に架かるアクアライン、東関東自動車道館山道に接続する重要な幹線道路です。

しかし、現道は幅員が狭小なうえに急カーブが連続していて、全体工区3.7kmについて昭和54年から逐次改良工事が進められ、平成25年に新筒森トンネルを含む箇所が共用になった道路でした。

養老溪谷の近くで、動植物や自然環境に配慮した「エコロード」として整備が進められています。

また、国道297号線は勝浦市から大多喜町を經由して中原市を結ぶ

房総半島を縦断している道路で、産業と観光には大変重要な幹線道路とされています。

勝浦市松野の市街地を迂回するバイパスが工事中でした。工事の目的が観光道路として標記され、工事区間6.6kmを4工区に区分し、平成元年から事業着手されています。

榛東村には国道がありませんが、「エコロード」や観光道路といった取り組みにおいては、村内の道路にも取り入れる要素があり、観光バスが走れない村道の解消など道路の課題は数多くあります。今回の研修を村の道路行政に反映させていきます。



# 文教厚生常任委員会

- 11月18日** 栃木県那須烏山市学校給食センター
- 11月19日** 埼玉県宮代町
- 11月20日** 五霞町教育委員会(五霞中学校)



## 那須烏山市 基準とアレルギーに 対応した給食センター

那須烏山市学校給食センターは、平成24年に開設した新しい給食センターです。小学校5つ、中学校3つに配送しており、約2300食のおかずの調理をしています。学校給食衛生管理基準を取り入れた施設で、ドライシステム方式です。アレルギー食調理室もあり、乳と卵アレルギーに対応した給食を常時2名の職員で作っています。

那須烏山市のように基準に対応した、そして、アレルギー食調理室を含む給食センターには、延床面積が約2000㎡、敷地面積約4000㎡の規模が必要であることがわかりました。本村も今後のことを考えた整備計画を立てていく必要があると感じました。また、本村と同様に調理と配送業務を委託しており、車両を含めた委託は今後の参考となりました。

は、昭和62年に完成し、築27年が経過しています。

平成21年に学校給食衛生管理基準が施行され、従来の基準の大幅な改正が行われました。それらに対応するよう施設の改修や作業の工夫を行ってききましたが、現状の施設では狭く、基準にすべて対応できていません。



## 宮代町

# 給食費の未納対策を学ぶ

宮代町は、人口約3万3000人、関東平野のほぼ中央部にあり、埼玉県の東北部に位置しています。

宮代町では、各課が個々に行っていた町の債権管理を各課の横の連携を図るため、平成23年に徴収課を中心に全庁的に統一しました。給食費もそれらの手順書を基に徴収を行っています。特徴は、月に2回銀行から引き落としを行い、各学校の協力の下、月々の単位で未納者に電話催告をし



ています。未納の金額が溜まらないう段階での声掛けを徹底し、少しの金額から納めてもらうという方法です。年末から年明けは、学校と教育委員会で訪問調査による徴収を行い、現年度分の徴収に力を入れていきます。滞納分の徴収は教育委員会が電話催告や訪問調査により行っています。これらの取り組みから平成24年度は99.8%、25年度度は99.7%と高い徴収率でした。さらに、平成25年3月には、宮代町学校給食費滞納整理事務処理要綱を作成し、「法的措置を講じる」内容が盛り込まれ、滞納対策の強化を図っています。学校の協力が大きく、教職員の負担がかなりあることから、簡単ではないと感じていましたが、早期の声掛けや法的措置に関しては村でも取り入れる必要があると思われました。

## 五霞町

# ICT活用で授業が変わる



の授業とパソコン教室で図形ソフト「シンデレラ」を使用した数学の授業を視察しました。ここでは、通常のノートPCからタブレット型に変更することができ、両方の特性を備えたコンバーチブルPCを使用しています。校内無線LANにより普通教室や災害時

五霞町は、都心より50km圏内に位置し、利根川、江戸川、中川等に囲まれた自然豊かな町です。人口は9178名、(平成26年10月1日現在)本村と同様に小学校2校、中学校1校があります。

研修では、五霞中学校にて授業視察をさせていただき「ICT活用による『授業力』向上の取り組みについて」先進的な取り組みを学んできました。授業は、電子黒板及びデジタル教科書を使った英語

の体育館でもタブレットPCが活用できる環境となっています。

また、授業に活用してもらうようパソコン教室の利用法やICT講座等の研修を全職員で行っています。

本村では、パソコン教室にデスクトップ型のパソコンが整備されていますが、普通教室での活用はできない状況です。今後は、村でも電子黒板やデジタル教科書の導入等情報環境の整備全体を考えた計画を立てていく必要性を感じました。

## 県外から榛東村へ視察に訪れました



とき	11月6日(木)
訪れた町村	福島県只見町議会(議会運営委員会)
研修内容	榛東村役場庁舎視察(建設概要)



とき	11月6日(木)
訪れた町村	徳島県板野町議会
研修内容	再生可能エネルギーについて 農業の第6次産業化の推進について